

令和 6 年 5 月 9 日現在

機関番号：32634

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K01484

研究課題名（和文）援助供与国としての中国の台頭と国際援助体制へのインパクトの分析

研究課題名（英文）China as an emerging aid donor and its impact on international aid regime

研究代表者

稲田 十一（Inada, Juichi）

専修大学・経済学部・教授

研究者番号：50223219

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究で焦点をあてたのは、中国の対外経済協力の拡大が開発途上国の経済社会や政治外交に及ぼす影響を与えているのかという点であり、特にカンボジア、ラオス、ミャンマー、スリランカ等の中国の経済支援の影響が大きいアジア諸国を事例として取り上げ、実証的に検証した。

また、各国に焦点をあてた国別事例研究に加えて、「一帯一路」イニシアティブやAIIB（アジアインフラ投資銀行）などの中国が主導する地域経済協力の枠組みについても、文献調査および専門家などへのヒアリング等を通じて、それらが既存の国際的枠組みとどのような対抗関係あるいは補完関係にあるかについて分析・検証した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

中国の急速な経済成長が開発途上国地域の持続的発展や貧困緩和にどのように貢献しているのか、中国の援助国としての台頭が国際援助協力の枠組みに及ぼす影響を与え、国際社会との間でどのような問題に直面しているか等を検討することは、国際開発援助体制の変容の実態を把握・分析するうえでの新たな大きな研究課題である。

本研究はこうした研究課題に関し、カンボジア・ミャンマー・スリランカなどのアジアの具体的な国々の事例を実証的に検証し比較検討・分析することによって、具体的な実像を客観的に見いだそうとするものであり、その研究・分析は学問的に必要とされているばかりでなく、政策的にも大きな含意を持つものである。

研究成果の概要（英文）：The focus of this study was on how the expansion of China's foreign economic cooperation has affected the economy, society, politics and diplomacy of developing countries. I examined some Asian countries that have been particularly affected by China's economic assistance, such as Cambodia, Laos, Myanmar, and Sri Lanka, as case studies to empirically examine this issue.

In addition to country-specific case studies focusing on individual countries, I also analyzed and verified the competitive or complementary relationship between China-led regional economic cooperation frameworks, such as the "One Belt One Road" initiative (BRI) and the Asian Infrastructure Investment Bank (AIIB), and existing international frameworks, through a literature review and interviews with experts and relevant officials.

研究分野：国際政治経済、国際協力

キーワード：中国の援助 国際援助体制 北京コンセンサス 一帯一路 カンボジア ミャンマー スリランカ

## 様式 C-19、F-19-1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

中国の対外援助の拡大は、近年、様々な角度から国際的な関心の的となっている。その援助の実態把握、援助政策決定やその支援方法の特徴、またそれが国際開発援助全体にもたらす含意など、多くの論点があり、そうした中国の援助の全体像については、様々な視点から議論と研究が次第に進んできた。例えば、世銀が主導してきた開発アプローチである「ワシントン・コンセンサス」に対し、中国の開発経験は、政府による経済への強力な介入のもとで外国借款や投資を受入れ、貿易投資の拡大など経済関係強化を通じて工業化を推進しようとする開発モデルでもあり、これを「中国型開発モデル」と呼ぶことも少なくない。また、中国の急速な経済発展に伴って、その経験に基づく開発モデルが世界的に広まってきている現象をとらえて、「ワシントン・コンセンサス」にとってかわる「北京コンセンサス (Beijing Consensus)」の台頭を指摘する議論もある。またアフリカのいくつかの国々について、ジャーナリストや研究者による事例研究もなされるようになった。

しかし、アジア地域における中国の援助の実像については、マスメディアでは取り上げられるものの、学問的な実証的な調査研究・分析は未だ十分になされていなかった。特に 2000 年代半ば以降、東南アジア・南アジアにおける中国の経済的プレゼンスの拡大は著しく、この地域における中国の貿易や投資の拡大についてはすでに多くの関連研究があったが、中国の対外援助について取り上げた実証研究はほぼ皆無であった。中国の援助は、援助対象国の経済社会のみならず、政治外交のあり方にも影響を及ぼしているが、実証的な研究や学問的な分析が必要とされている状況にあった。

### 2. 研究の目的

本研究で焦点をあてたのは、中国の援助の拡大が開発途上国の経済社会や政治外交に及ぼす影響を与えつつあるかという点であり、特にカンボジア、ラオス、ミャンマー等の中国の援助の影響が大きいアジア諸国を事例として取り上げながら、以下のような論点について検討した。①拡大する中国の経済協力の実態把握、②中国の援助拡大とそのアジアへの経済社会的インパクトおよび政治外交面でのインパクトの評価、③中国の援助の国際援助コミュニティとの非(ないし没)協調の持つ意味と功罪、④「中国型開発モデル」「北京コンセンサス」の意味とその国際的影響。

これらの論点を具体的に検証するために、カンボジア・ラオス・ミャンマー・スリランカという、東南アジアで異なったコンテクストにあるものの、中国の援助の影響力が拡大してきた国々を事例として取り上げ、実証的にこれらの論点を検証することをめざした。また、アジア各国に焦点をあてた国別事例研究に加えて、「一帯一路」構想 (BRI) や AIIB (アジアインフラ投資銀行) などの中国が主導する地域経済協力の枠組みについても、文献調査および専門家や関連する

担当者などへのヒアリング等を通じて、それらが既存の国際的枠組みとどのような対抗関係あるいは補完関係にあるかについて分析・検証した。

### 3. 研究の方法

アジア(特にカンボジア、ラオス、ミャンマー、スリランカなど)における中国の援助の実態とその経済社会及び政治外交に対する影響・インパクトや、「一帯一路」構想(BRI)やAIIBなどが既存の援助の国際的枠組みに与える影響・インパクトを、ADB・世界銀行などの国際機関、関連事業のカウンターパートとなっている省庁等へのヒアリング調査や事業の実査、関連団体・企業・政府機関・NGOへのヒアリング等を通じて実証的に把握した。具体的・詳細な情報・データ収集と、その意義と功罪を可能な限り客観的に分析するために、以下のいくつかの方法を併用した。

- ・文献調査—内外の研究者や研究機関、国際機関や政府の関連文献・統計・資料等
- ・ウェブでの入手可能資料—内外の研究所、政府及び援助関連機関の統計・報告書等
- ・現地調査の際のヒアリング(現地研究機関・研究者、国際機関・政府・援助機関、関連団体や企業・NGO等)
- ・中国系の進出企業や援助事業の現地カウンターパートへのヒアリング調査と事業の実査

具体的な国別現地調査として、2019年3月にスリランカ、2020年2-3月にミャンマーでの現地調査を実施した。その後、感染症(COVID-19)の広まりによって現地調査の実施は困難となったが、2022年5月に東ティモール、2022年12月にカンボジアの現地調査を実施した。なお、JICA(国際協力機構)や外務省のODA評価など、関連する研究調査(特にカンボジア、スリランカ、東ティモールなどでのODA事業関連調査)を通じた情報収集や現地の関連研究者などのネットワークも活用しながら、詳細な情報収集を行った。

### 4. 研究成果

本研究で焦点をあてたのは、中国の対外経済協力の拡大が開発途上国の経済社会や政治外交にいかなる影響を与えているのかという点であり、特にカンボジア、ラオス、ミャンマー、スリランカ等の中国の経済支援の影響が大きいアジア諸国を事例として取り上げ、実証的に検証した。また、各国に焦点をあてた国別事例研究に加えて、「一帯一路」イニシアティブやAIIB(アジアインフラ投資銀行)などの中国が主導する地域経済協力の枠組みについても、文献調査および専門家などへのヒアリング等を通じて、それらが既存の国際的枠組みとどのような対抗関係あるいは補完関係にあるかについて分析・検証した。政策的にも大きな含意を持つテーマであるが、本研究は実証的な具体的検証を通じて、学術的な客観性を持つ研究成果とすることに力を注いだ。

具体的な研究成果物としては、以下の様な論文・著書がある。

- ・稲田十一「中国「一帯一路」事業のスリランカへのインパクトとその評価」『専修大学社会科学研究所・月報』2019年8-9月号(No. 674-675)
- ・稲田十一「ドナーとしての中国の台頭とそのインパクト—カンボジアとラオスの事例」金子・山田・吉野編『一帯一路時代のASEAN』（第7章）、明石書店、2020年。
- ・稲田十一「急拡大する中国の対外経済協力とその規範の変容可能性—ミャンマー・ミッソンドムの事例を中心に」『専修大学社会科学研究所・社会科学年報』2021年3月号(No. 55) (2020年11月「日本国際政治学会・全国大会」で報告)
- ・稲田十一「カンボジア開発過程への中国の影響—国際援助協調の衰退と権威主義化の連動の分析」『専修大学社会科学研究所・社会科学年報』2022年3月号(No. 56)
- ・稲田十一「途上国の民主主義後退の中国要因と内発的要因—カンボジア事例分析」『専修大学社会科学研究所・社会科学年報』2024年3月号(No. 58)

なお、最終年度の2024年3月に以下の単著を出版した（その印刷・製本費を本科研最終年度予算より支出）。

稲田十一『一帯一路を検証する—国際開発援助体制への中国のインパクト』明石書店。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 稲田十一	4. 巻 第58号
2. 論文標題 途上国の民主主義後退の中国要因と内発的要因 カンボジア事例分析	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 専修大学社会科学研究所・社会科学年報	6. 最初と最後の頁 43-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 稲田十一	4. 巻 第56号
2. 論文標題 カンボジア開発過程への中国の影響 - 国際援助協調の衰退と権威主義化の連動の分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 専修大学社会科学研究所・社会科学年報	6. 最初と最後の頁 43-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 稲田十一	4. 巻 2022
2. 論文標題 途上国のインフラ開発と日中の対応 - 国際的枠組みの強化に向けて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 経済・安全保障リンケージ研究会報告書（日本国際問題研究所）	6. 最初と最後の頁 43-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 稲田十一	4. 巻 第55号
2. 論文標題 急拡大する中国の対外経済協力とその「規範」の変容可能性 - ミャンマー・ミッドナムの事例を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 専修大学・社会科学年報	6. 最初と最後の頁 29-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲田十一	4. 巻 9・10月合併号(No.675-676)
2. 論文標題 中国「一帯一路」事業のスリランカへのインパクトとその評価	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 専修大学社会科学研究所月報	6. 最初と最後の頁 35-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件(うち招待講演 0件/うち国際学会 6件)

1. 発表者名 Juichi INADA
2. 発表標題 The Paths to Democracy in Former Portuguese Colonial States: Comparative Analyses of Angola and Timor Leste
3. 学会等名 IPSA(International Political Science Association), 26th World Congress (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 稲田十一
2. 発表標題 急拡大する中国の対外経済協力のインパクトとその「規範」の変容
3. 学会等名 日本国際政治学会 2020 年度研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Inada, Juichi
2. 発表標題 Are “democratic developmental states” feasible?: The role of international actors in Cambodia and Rwanda
3. 学会等名 The IPSA (International Political Science Association) Joint Colloquium: Diversity and Democratic Governance (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Inada, Juichi
2. 発表標題 Is democracy feasible in “ Post-conflict Developmental States ” ? : Comparative Analyses of Cambodia and Angola
3. 学会等名 International Conference on Global Risk, Security and Ethnicity organized by the International Political Science Association (IPSA) ( 国際学会 )
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Inada, Juichi
2. 発表標題 The Impact of Chinese Aid and the “ Beijing Consensus ” : A Comparative Study of Cambodia and Angola
3. 学会等名 17th Asia Pacific Conference (Ritsumeikan Asia Pacific University) ( 国際学会 )
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Inada, Juichi
2. 発表標題 The Impact of Chinese Aid and the “ Beijing Consensus ” : A Case of Cambodia and its Implications to Southeast Asia
3. 学会等名 The 25th IPSA World Congress of Political Science (International Political Science Association, Brisbane) ( 国際学会 )
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Inada, Juichi
2. 発表標題 The Impact of Chinese Aid and the “ Beijing Consensus ” : A Case of Cambodia and its Implications to ASEAN
3. 学会等名 The 6th JSA ASEAN Conference (Japan-Asean Studies Association, Jakarta) ( 国際学会 )
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 稲田十一(阿曾沼邦昭(編))	4. 発行年 2023年
2. 出版社 文真堂光文社	5. 総ページ数 137
3. 書名 カンボジアの近代化(第3章・カンボジアの近代化と社会変容)	

1. 著者名 金子芳樹・山田満・吉野文雄(共編)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 281
3. 書名 『一帯一路時代のASEAN』(第2部第7章)ドナーとしての中国の台頭とそのインパクト - カンボジアとラオスの事例	

1. 著者名 稲田十一	4. 発行年 2024年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 272
3. 書名 一帯一路を検証する - 国際開発援助体制への中国のインパクト	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------